

【一】 次の各問に答えなさい。

問一 次の各文の傍線部のカタカナを漢字で書き、傍線部の漢字の読み方をひらがなで書きなさい。

- ① 決定事項についてケントウする。
- ② 外に出る時はボウシをかぶる。
- ③ 一万円札をリョウガエする。
- ④ アットウ的な勝利をおさめる。
- ⑤ 国際シンゼンに尽力する。
- ⑥ クイズで賞金をカクトクした。
- ⑦ 魚をムし焼きにする。
- ⑧ 喜びにヒタつて笑顔になる。
- ⑨ いつでもプライドをスてるな。
- ⑩ 車窓からの眺めを楽しむ。
- ⑪ 答えられない者は皆無だ。
- ⑫ 王様の命令に従順な家来。
- ⑬ 深い態度は好感が持てる。
- ⑭ 著しい進歩を遂げた。
- ⑮ 専ら国語を勉強する。

問二 次の①②③のＡ～エの中には一つだけ文法上の性質が他と異なる言葉がある。それをそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

- | | | | | |
|---|---------|--------|--------|---------|
| ① | ア 走れる | イ 食べる | ウ 泳げる | エ 買える |
| ② | ア 召し上がる | イ 拝見する | ウ いただく | エ 差し上げる |
| ③ | ア 消す | イ 割る | ウ 出す | エ 残る |

問三 次の①～④のことわざと同じような意味を表すことわざを後の語群から選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ① 毒を食らわば皿まで
② 泣きつ面に蜂
③ 河童の川流れ
④ 寝耳に水

【語群】

- ア 弘法にも筆の誤り
イ 灯台もと暗し
ウ 晴天の霹靂
エ 弱り目に祟り目
オ 乗りかかった船
カ 鬼の目にも涙

問四 次の①～④の意味は生き物の名前を含んだ慣用句で表すことができる。例にならって、それぞれひらがなで答えなさい

例 【意味】眠っているふりをする。こと。 ↓ () () き () い () 【答え】たぬきねいり

- ① 【意味】 ひろったものを黙って自分のものにする。 ↓ () () () () ()
 ② 【意味】 酒に酔った人のふらふらした足どり。 ↓ ち () () () () ()
 ③ 【意味】 下手なしばい。または、浅はかで愚かな行動。 ↓ () () () () ()
 ④ 【意味】 両者が同じことを繰り返すばかりで決着がつかないこと。 ↓ () () () () ()

【二】 次の文章を読み、後の問に答えなさい。

バリアフリーとかユニバーサルデザインといった美しい横文字が世間を彩る近年、皆さんもこうした言葉を耳にされたことがあるだろう。ご存じのように、バリアフリーを乱暴にひと言で言うなら、「障害者と健常者の間にある壁を取り去ってしまおう」というところだろう。それをさらに発展させたのがユニバーサルデザインというもので、これも乱暴に言えば、「健常者だけでなく障害者も高齢者も一つの商品で間に合うように工夫しよう」ということになる。

だがちよつと待つてほしい。いま ＊1 ちまた 巷に氾濫はんらんしているこれらの美しいカタカナ言葉は、本当に ^①私が夢見る方向を見つめて
いるのだろうか。

バリアフリーというのは、本来「みんなが」バリアから解放されることを意味するはずである。ユニバーサルデザインとは、本来「みんなが」ハッピーになれる設備や商品のはずである。ところが視覚障害者の目から見ると、どうもバリアフリーというよりは「車椅子対応」と言いたくなるようなケースが多い気がしてならない。道路の段差をなくしたり、車椅子で利用できるエレベーター

ターが設置されたりすると、「バリアフリー施設」などと看板が立てられたりする。またユニバーサルデザインというと、かなりケースで「高齢者対応」と言えそうなものが見受けられる気がする。A、あるところで一部の弱者に配慮が加えられているものを「バリアフリー」と謳^{うた}ってしまうと、その一部の人々よりもさらに困っている人々にとっては大変中途半端な配慮ということになって、かえって歯がゆい思いが強くなったりするように思えるのである。

たとえばエレベーターを考えてみると、B「車椅子対応のエレベーターにはたいいてい点字のボタン表示がついていて、一見私たち^{*2}視障者にも配慮が加えられているかのように見える。だがしかし、本当はそれの上に音声案内がついていなければ、現実に利用するにはかなり不安なのだ。車椅子・点字対応のエレベーターの中には、この音声案内のないものがあるときどき見受けられる。これでは、たとえ点字表示があっても、目の前にドアを開いたエレベーターが上に行くのか下に行くのか分からない。

つまり、私が見るところでは、バリアフリーもユニバーサルデザインも、どこかに^②「穴」をもっているような気がするのである。そしていまのところ、私たち視覚障害者が、多くのケースでその「穴」にはまっていそうな気がする。本当は、その「穴」を少しでもなくして、初めて私が思う「元気な心のユニバーサル社会」が実現するような気がしてならない。そしてそうなるには、生産する人も消費する人も、もう一度「発想」というものを見つめ直すことが大事なのではないかと強く思うようになったのである。

C、こんなこともよくある。私はラッシュアワーに差しかかった駅のプラットホームを歩いている。「危ないですから、黄色い線の内側にお下がってください」と放送が流れている。私は肩から鞆^{かばん}をかけ、片手に^{*3}白杖^{はくじょう}を持ち、ホームの隅っこに敷いてある誘導ブロックを足で探りながら歩いている。「1」
ご存じのように、これは点字ブロックと呼ばれていて、私たち視覚障害者が線路に落ちないための道標^{みちしるべ}である。「2」放送でいう「黄色い線」はこの点字ブロックのことだ。「3」

では、その黄色い道でどんなことが起こっているかというところ、この道の存在を知らない人々が、何の気なしにそこに立って電車を待ったり、大きな荷物をドッシリと据^すえてしまうのだ。「4」そして、白杖でそれを探り切れないうとき、私たちはまともにその人の体や荷物に体当たりするはめになる。

もしもふとしたはずみで、私や私がぶつかった人が線路に落ちて、そこに電車が入ってきたらどうなるだろう。ホームの端で人とまともにぶつかるといことは、お互いに命がけなのだ。「来たらよければいい」のではなく、X「でなければ、お互いに命がいくつあっても足りはしない。

このごろは、線路に落ちる健常者も増えているし、私たちの^{*4}同胞のほぼ二人に一人は線路に落ちた経験があるほどだ。私たち目の見えない者にとって、^③転落はニュースではなく「日常」なのである。

ときどき、「点字ブロックは車椅子やベビーカーの走行にじやまず」と言う人がいる。けれど、これは私たちの命の綱^{なわ}なのだから、そう言われるとうも困ってしまう。現に私も、電車の入り口にベビーカーが止められていて、それを押している人が声を発しなかったために、まともにぶつかったことが何度かある。ここでひと声あれば、そんな事故は防げるのだ。

私たちも、白杖に皆さんが躓^{つまず}いたりしないよう、探りたいところも遠慮するなど細心の注意を払って歩いている。まさに、お互い様なのだ。だからこそ思うのだが、車椅子やベビーカー、あるいは網^{あみ}棚^{だな}におけない大きな荷物などを通路におくのなら、周りに目を配り、「すみません」とひと言声をかけるのも、自然なマナーと言えまいか。そしてこうした思いやりの交換は、^{*5}くしくも物づくりの発想の根幹に関わる、大変重要なテーマなのではないか、という気がするのである。

（三宮麻由子『目を閉じて心開いて』）

注

*1 巷……世の中。世間。

*2 視障者……視覚障害者のこと。

*3

白杖……視覚障害者が歩行の際に使用する白い杖。

*4 同胞……ここでは、同じ視覚障害者。本来は、兄弟姉妹。同じ国民や民族。

*5 くしくも……偶然にも。不思議にも。

問一 問題文中の「A」～「C」に入る言葉として最も適当なものをそれぞれ次の選択肢ア～カから一つずつ選び、記号で答えなさい。ただし、同じ記号を二度以上使ってははいけません。

ア なぜなら イ さて ウ つまり エ だから オ たしかに カ だが

問二 問題文中には次の一文が抜けている。それが入る箇所として最も適当なところを問題文中の「1」～「4」から選び、番号で答えなさい。

それは健常者にとっては「黄色い危険ライン」かもしれないが、私たちにとっては「生死を分ける」道だ。

問三 問題文中の「X」に入る表現として最も適当なものを次の選択肢ア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 来る前によけるかどうかを考える イ 来るのが悪いのでよけなくていい
ウ 来る方がよけるのをその場で見守る エ いつ来てもいいようによけておく

問四 問題文中の傍線部①「私が夢見る方向」とあるが、私はどのような社会の実現を夢見していると考えられるか。問題文中からそれにあたるものを十三字で抜き出しなさい。

問五 問題文中の傍線部②「『穴』」とは、ここでは何を表すか。それを説明した次の文の（Ⅰ）・（Ⅱ）・（Ⅲ）にあてはまる表現をそれぞれ指示にしたがって答え、文を完成させなさい。

（Ⅰ 問題文中から五字で抜き出す）にとっては助かる設備や商品ではあるが、他の人たちには（Ⅱ 問題文中から七字で抜き出す）になっているという（Ⅲ 漢字二字で自分で考える）。

問六 問題文中の傍線部③「転落はニュースではなく『日常』なのである」とは、どういうことか。次の（Ⅰ）に入る表現を指示にしたがって考え、文を完成させなさい。

転落は（十五字以上二十字以内）出来事だということ。

問七 問題文における筆者の考えるバリアフリー社会・ユニバーサル社会は、「物を作る人」「物を使う人」それぞれがどのようにすることで生まれるものだと考えられるか。自分の言葉で具体的に説明しなさい。

問八 次の選択肢ア～オの各文のうち、問題文と内容が合っているものを二つ選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア 視覚障害者が快適に暮らせる社会を作るためには、視覚障害者を配慮した「黄色い線の内側にお下がりください」という音声案内や点字ブロックはなくてはならないものだ。

イ 点字ブロックをじゃま扱いする健常者がいるが、そのような人たちも場合によっては視覚障害者のじやまになっていることがあるので、お互いに関わりを持たないことがマナーだ。

ウ 視覚障害者は点字ブロックに頼らざるをえないということを健常者は意識しておらず、バリアフリーやユニバーサルデザインという言葉は世間に広まってはいるが心掛けは伴っていない。

エ 視覚障害者と違って、健常者は目や耳を使って危険を察知することができるので、たとえ駅のプラットホームで黄色い線の上に立っていても事故につながるような危険な目にあうことは全くない。

オ 車椅子対応のエレベーターは、たとえ音声案内がついていなくても車椅子を使用している人には不都合ではないだろうが、視覚障害者には必ずしも便利なものとはならない。

【二】 次の文章を読み、後の問に答えなさい。

その日曜日、彼はいつになくのんびりした気分になっていた。付き合いのゴルフもなければ部下の結婚式もなかった。親類の*¹法事もなければ子供の運動会もない。しかも、妻は小学六年の娘の付き添いで都心の進学塾に行き、中学二年の息子はクラブ活動に出かけていた。

ひとりでテレビを見ていたが、やがて退屈してきた。読みかけのビジネス書を広げても、なんとなく^a興が乗らない。そこで、デパートにでも行ってみるかという気になった。妻が出がけに、気が向いたらでいいから*²中元の不要品をデパートに持っていて商品券に換えてきてくれないか、と言い残していったのだ。

彼は洋酒の箱を持ち、車でデパートへ行った。特設された臨時の「返品所」には長蛇の列ができており、客は手にそれぞれ不要の中元品を持っていた。A 順番がまわってきて、交換券という一種の商品券を受け取ると、彼はなんだか^①ひと仕事を終えた気分になった。

ビールでもと思ったが、日曜の午後ということでデパート内の食堂はどこも満員だった。店内をぶらぶらしているうちにB 紳士服のネクタイ売り場に来ていた。そこでネクタイを眺めていると、^b不意に胸がうずいた。いまから二十年も前の、彼が大学生だった頃のことか思い出されたのだ。

大学時代、彼はふだんの家庭教師とは別に、夏と冬の休みは*³日本橋のデパートでアルバイトをすることになっていた。最初の時に気に入られたらしく、配属されるのはいつも*⁴特選売り場と決まっていた。

その特選売り場での経験の中で、彼にとつてもつとも面白かったのは、ネクタイ売り場にひとりで立たせてもらったことだった。二年目の夏、どういうわけか許されることになったのだ。

陳列ケースには、国産のネクタイと並んでフランスやイタリア製のネクタイが置いてあり、値段は国産品のほぼ倍、彼の一日の

アルバイト料の八日分から十日分という高価なものだった。

その中に一本、彼の気に入りのネクタイがあった。オレンジとグリーンとゴールドという、およそ日本人には似合いそうもない配色だったが、素材もデザインも素晴らしいものだった。自分が見えるわけでもなし、たとえ買えたとしてもしめられそうになかったが、一日それが売れないとなぜかホッとした。中には見せてくれという客もいたが、理由をつけてはそれとなく買わないように仕向けるようなこともした。

ところがある日、^②彼と同じ年頃の若者がケースの前に立った。白のポロシャツにジーンズと*⁵ローファーというござっぱりした格好をしたその若者は、しばらく眺めたあとで、例のネクタイを指さして言った。

「あれをくれない」

そして、尻のポケットから無造作に金を取り出すと、一万円札をケースの上に置いた。

そのネクタイを包装し、釣銭と一緒に渡すと、若者はありがとうと言って、立ち去った。

彼は敗北感に打ちのめされた。その若者が自分の*⁶日当の十日分の値段のものを苦もなく買ってしまったというだけでなく、ケースを*⁷瞥しただけでそのネクタイを選び出してしまったということ、しかもその若者なら似合うかもしれないと認めざるをえないことが、彼に深い敗北感を味わわせることになったのだ。彼は若者の後姿を見送りながら、腹の底で何度もつぶやいていた。いまに見てろ、いまに見てろ、と。

そういえば、自分はある時、「いまに」どのようになってみせるかと思っていたのだろう。もう定かではなくなってしまうが、^c少なくとも、現在の自分のような、*⁸丸の内の会社に勤め、結婚し、二人の子供を作り、家を建て、そして送られてきた中元の品を商品券に換えてもらうためにデパートに行く、といった人生でなかったことだけは確かだ……。

ぼんやり陳列棚に眼をやっていると、イタリアの有名なブランドのネクタイの中に、二十年前に心ひかれたものによく似たネクタイがあるのに気がついた。ゴールドの部分がクリーム色になっているだけで、あとは驚くほど似ている。

それはちようどさっきの交換券で買える範囲の金額だった。一瞬、買ってみようかなと思ったが、C バカなと思ひ返した。こんな派手なネクタイを会社にしていくわけにはいかないし、これをして遊びに行くような場所も知らない。そして、そこを二、三步はなれかけたとき、彼は ③ 最前のうずきとは比べものにならないくらい ④ 深い物哀しさに襲われた。自分が、あのオレンジとグリーンとゴールドのネクタイの前に広がっていた人生の可能性の、ほんの一部しか生きてこなかったことを思い知らされたような気がしたからだ。

(沢木耕太郎「ネクタイの向こう側」)

注

- * 1 法事……亡くなった人の供養のために行う仏事。
- * 2 中元……七月の中頃に、世話になった人に贈る贈り物。
- * 3 日本橋……東京都の地名。
- * 4 特選売り場……優れた商品を特別に選り集めた売り場。
- * 5 ローファー……革靴の一種。
- * 6 日当……一日いくらと定めて支払う手当。
- * 7 一瞥……ちらつと見ること。
- * 8 丸の内……東京都の地名。

問一 問題文中の波線部 a「興が乗らない」b「不意に」のここでの意味として最も適当なものを後の選択肢ア～エからそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

- | | | | | |
|------------|-------------|-------------|---------|-----------|
| a 「興が乗らない」 | ア おもしろく感じない | イ 集中力がわからない | ウ 興奮しない | エ 理解できない |
| b 「不意に」 | ア 驚くことに | イ 自然と | ウ 場違いにも | エ 思いがけず急に |

問二 問題文中の波線部 c「少なくとも」が修飾する部分として最も適当なものを次の選択肢ア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- | | | | |
|----------|------|--------|-------|
| ア 自分のような | イ 行く | ウ なかった | エ 確かだ |
|----------|------|--------|-------|

問三 問題文中の A C に入る言葉として最も適当なものを次の選択肢ア～カから一つずつ選び、記号で答えなさい。ただし、同じ記号を二度以上使ってはけません。

- | | | | | | |
|--------|-------|--------|-------|-------|--------|
| ア しだいに | イ すでに | ウ ようやく | エ すぐに | オ ずっと | カ いっしか |
|--------|-------|--------|-------|-------|--------|

問四 問題文中の傍線部①「ひと仕事を終えた気分になった」とあるが、この時の「彼」の気持ちの説明として最も適当なものを次の選択肢ア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- | |
|---|
| ア 中元の不要品と交換するだけで働かずに商品券を手に入れることができたので、大変得をした気分が快くなっている。 |
| イ 妻の依頼とは言え、不要品を商品券に交換することができ、形になることを成し遂げたような達成感で満足している。 |
| ウ 中元の不要品と商品券を交換する客の長蛇の列に並んでいたため、無駄働きをしたような疲労感でうんざりしている。 |
| エ 自分は苦労して不要品から商品券を手に入れたので、平凡な休日を過ごしている妻子に対して優越感を味わっている。 |

問五 問題文中の傍線部②「彼と同じ年頃の若者」とあるが、この「若者」の説明としてふさわしくないものを次の選択肢ア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- | |
|---|
| ア 物を見極める目を既に備えており、「彼」より上等なネクタイにふさわしい雰囲気を持ち合わせた人物である。 |
| イ 言動に多少ぶつきらばうなところはあがあるが、青年らしい清潔感が感じられる身なりをした人物である。 |
| ウ まだ若者ではあるが経済的にゆとりがあり、言動にも堂々とした自信がみなぎっている人物である。 |
| エ 「彼」と同じようにネクタイを気に入っていたが、「彼」以上に努力を重ねた結果、「彼」よりも成長できた人物である。 |

問六 問題文中の傍線部③「最前のうずき」とあるが、この「うずき」のもとにある気持ちを表す言葉を問題文中から三字で抜き出さなさい。

問七 問題文中の傍線部④「深い物哀しさに襲われた」とあるが、なぜ「彼」はこのような気持ちになったのか。「彼」が現在の生活をどのようにとらえていたかをふくめて、五十字以上六十字以内で自分の言葉でわかりやすく説明しなさい。

問八 問題文における「ネクタイ」の説明として、内容が合っているものには○を、合っていないものには×を答えなさい。

ア 学生の「彼」の前に広がる未来へのあこがれを表すものとして描かれている。
イ 過去と現在を結びつけるはたらきをしており、自然な場面転換へと導いている。
ウ 高価な装飾品の典型であるので、「彼」の経済力の変化を効果的に物語っている。
エ 「彼」が過去の悲しみに今でも「縛^{しほ}られている」ことを皮肉を込めて暗示している。
オ 今まで「彼」が気にしていなかった現在の自分自身を振り返るきっかけとなっている。

解
答
用
紙

$$\begin{pmatrix} 2 \\ 0 \\ 1 \\ 4 \end{pmatrix} \quad \begin{pmatrix} J \\ 1 \end{pmatrix}$$

受験番号	
氏 名	
得 点	

問 四		問二	問 一		
④	①	①	⑪	⑥	①
た	こ				
		②			
	②		⑫	⑦	②
	ち	③			
こ					
		問三			
		①			
				し	
			⑬	⑧	③
③					
	②				
				って	
	③		い		
ば			⑭	⑨	④
	④				
			しい	てる	
			⑮	⑩	⑤
			ら		

問八	問 七	問六	問五	問四	問一
			I		A
					B
					C
			II		問二
					問三
					III

【三】

問八	問 七			問六	問四	問一
ア						a
						b
イ					問五	
						問二
ウ						
						問三
						A
エ						
						B
オ						
						C
		</				